

巻頭言

国際教養学部長 照本 祥敬

国際教養学部は、今年度を以て完成年度を迎えます。学部として初めての卒業生を送り出すこととなります。

本書『教養教育研究 21』は、完成年度後の全学共通教育並びに学部専門教育の充実発展に向けた 2010 年度の学部としてのとりくみをまとめています。その中心は、全学共通科目と学部固有科目のカリキュラム改正にかかわる検討作業です。この検討作業は 2011 年度も続きますが、2010 年度は、主として将来計画委員会及び学部固有科目運営委員会において、現行カリキュラムに関する総括的な評価と改善点についての洗い出しがおこなわれました。全学共通科目に関しては英語教育の改革や新領域科目の充実、さらに初年次教育及び卒業準備教育のあり方などが、学部固有科目に関してはキャリア教育科目の新設や海外課題研究の履修条件の改正などが検討されました。その詳細については、両委員会の活動記録を参照ください。

カリキュラム改正という作業に集中的にとりくんだ一年でしたが、授業改善をはじめとする教育活動の充実強化を図るとりくみも例年と同様に実施されました。教育事業推進委員会が中心となり、FD 活動全般に関連するとりくみが積極的に展開されました。なかでも二つの講演会は、学部学生に対する教育活動の一環として、それぞれ「文化の多様性と国際協力」、「女性の働き方・生き方とキャリア形成」をテーマに開催されました。講演記録にもあるように、第一線で活躍されている講師の方から中身の濃いお話を聞くことができ、こうした分野や課題への学生の問題意識を高めることができたと考えています。

冒頭でもふれたように、今年度は、新しいカリキュラムのあり方を追求しつつ、全学共通教育と学部教育のより一層の発展に向けた土台づくりをする一年となります。ついては、教員相互、委員会相互の連携・協働、さらに教務課、国際センター、キャリアセンターなど、本学部の教育活動に係る部局との連携・協働を図りながら、しっかりとした土台ができるように努めていきたいと考えています。

2011 年 4 月